

再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名：一般国道391号 釧路東インター関連 <small>くしろひがし</small>	事業区分：一般国道	事業主体：国土交通省 北海道開発局
起終点：自：北海道釧路郡釧路町中央1丁目 <small>くしろ くしろ ちゆうおう</small> 至：北海道釧路郡釧路町中央6丁目 <small>くしろ くしろ ちゆうおう</small>		延長：1.6km
事業概要：一般国道391号は、釧路市から網走市に至る延長120kmの幹線道路である。このうち釧路東インター関連は、釧路外環状道路の釧路東ICと接続し、釧路市街における交通混雑の解消、交通事故の低減、物流の効率化等の支援を目的とした延長約2kmの4車線拡幅事業である。		
H16年度事業化	H10年度都市計画決定	H17年度用地着手
H18年度工事着手		
全体事業費	約63億円	事業進捗率：69%
計画交通量	供用済延長：0.0km	
費用対効果分析結果	16,400～27,700台/日	
B/C	(事業全体) 1.8	(残事業) 5.7
総費用	(残事業)/(事業全体) 22/67億円	
総便益	(残事業)/(事業全体) 123/123億円	
基準年	平成22年	
(事業費)	(走行時間短縮便益：113/113億円)	
(維持管理費)	(走行経費減少便益：6.0/6.0億円)	
	(交通事故減少便益：4.5/4.5億円)	
感度分析の結果：残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=6.3(交通量+10%) B/C=5.1(交通量-10%) 事業費変動：B/C=5.3(事業費+10%) B/C=6.2(事業費-10%) 事業期間変動：B/C=5.5(事業期間+20%) B/C=5.9(事業期間-20%)		
事業の効果等 定性的な効果 ①釧路外環状道路へのアクセス向上 ・交通容量の拡大により、釧路外環状道路へのアクセス向上が期待される。 ②交通事故の低減 ・交通混雑の緩和により、雪裡(せつり)橋交差点における交通事故の減少が期待される。 ③バスの利便性向上 ・路線バス遠矢(とおよ)線の定時性が確保され、遠矢(とおよ)地区のバス利用者の利便性向上が期待される。 ④石油製品の輸送効率化 ・釧路港から周辺市町村へ輸送される石油製品等の安定的輸送ルートの確保が期待される。 ⑤農水産品の流通利便性向上 ・標茶町や弟子屈町で生産される生乳の輸送効率化が期待される。 ⑥重要港湾へのアクセス向上 ・標茶町・弟子屈町・オホーツク方面から重要港湾である釧路港へのアクセス向上が期待される。 ⑦高次医療施設へのアクセス向上 ・高度な医療機能を有する釧路市への救急搬送時における迅速性・安全性の向上が期待される。 ⑧CO2排出量の削減 ・当該道路の整備により自動車からのCO2排出量が削減される。		
関係する地方公共団体等の意見 地域から頂いた主な意見等： 釧路市など1市6町1村の首長で構成される北海道釧路地方総合開発促進期成会等より整備の要望を受けている。		

